

熊本市の「トンボ池試掘」に探検隊スタッフが参加しました。

- とき 令和6年3月11日（月）午前9時30分～11時
- ところ 立田山お祭り広場／トンボ池
- 参加者 藤井、益田、倉光、中間、清田、長濱、藤井(景)
- 経緯 トンボ池、サクラ池、湿生植物苑の水がなくなり、熊本市の担当課（みどり公園課）は「3月中の緊急試掘」「4月以降の試掘や生物調査」「将来的な水量確保対策」と取り組むことを表明。この日のトンボ池試掘に、熊本博物館の清水稔先生と一緒に探検隊スタッフも立ち会いました。残念ながら重機で掘った堆積物の中に「生き物」は発見できませんでしたが、今後の本格的な調査（堆積物の分析、掘削による水量復活など）を期待しつつ見守りたいと思います。



**立田山の枯れた池
土砂や腐葉土堆積**
熊本市、現地調査

熊本市北区の「立田山憩の森」にある二つの人工池が枯れた問題で、熊本市は11日、陸地化した場所に穴を掘り、原因の一つとみられる池の堆積物を調べた。枯れたのは憩の森にあるトンボ池とサクラ池。市や熊本博物館の学芸員ら15人がトンボ池を調査した。重機で深さ1メートル、2メートル四方の穴を掘り、土砂や腐葉土が

約50センチ堆積していることを確認。穴からは大量の水が染み出していた。市は4月からサクラ池でも試掘を進め、池全体の状況を調査。トノサマガエルの産卵状況をモニタリングし、他の生物の種類や生息状況なども調べる。周辺には、池ができて約30年で形成された生態系がある。市みどり公園課は、「ただ堆積物を取り除くのではなく、調査結果を踏まえた上で中長期的な対応策を検討する」としている。

現地では観察会を開く「立田山自然探検隊」によると、トンボ池の陸地化した場所で堆積物を調べる熊本市の職員ら11日、熊本市北区



池には複数の水路から雨水が流れ込んでいるが、整備以降、徐々に水位が低下して一部が陸地化。トンボ池では、1月に水が完全になくなったという。

（米本充宏）